



# IL DEVU

## 4.30 [土] ちょっとお昼にクラシック IL DEVU (イル・デーヴ)

### 話題騒然の太メンユニット、“水戸場所”開催迫る！

文 関根哲也

#### 太メンユニット...

ちょっと抵抗がある方もいらっしゃるかも知れませんが、これは見て、聴いておいた方がいいと思いますよ！(笑)

総重量約500kgを誇る太メンユニット IL DEVU (イル・デーヴ) が、いよいよ「ちょっとお昼にクラシック」シリーズに登場します。一般的に、アーティストがツアーで全国を回る場合、都市の名を付けて「〇〇公演」と言いますが、IL DEVU の場合は「〇〇場所」なのです。IL DEVU のホームページ (<http://columbia.jp/ildevu/index.html>) をご覧いただきますと、“水戸場所”となっているのが確認できます。

#### 太メンならではのネーミング

IL DEVU は、2011年、望月哲也(テノール)、大槻孝志(テノール)、青山貴(バリトン)、山下浩司(バスバリトン)、河原忠之(ピアノ)の5名により結成された、男声とピアノからなるユニットです。2004年から活動している“イケメン”4人によるイギリスの音楽グループ IL DIVO (イル・ディーヴォ) を、“太メン”流にかなり自虐的にもじったネーミングです。

正直に申しまして、私も最初はおふざけだろうと思っておりました。ところが、実際に聴いてみまして...

そのパフォーマンスの素晴らしさに度肝を抜かれ、また音楽への愛にあふれた誠実な取り組みに感銘を受けました。それもそうかも知れません。なにせ、日本の音楽界を代表する歌手たちと、音楽の伴奏の第一人者が強力なタッグを組んだユニットなのですから！

#### メンバーはどんな太メン？

**望月哲也(テノール)** ...“21世紀の音楽界を担う最高のリリック・テナー”の看板に偽りなし！どこまでも澄んだイタリアの青空を思わせる、開放的な響きを持ったテノールです。水戸芸術館には、2006年のオペラの花束をあなたへ「幻想のルチア」(エドガルド役、岩田達宗演出)で1度登場しています。10年ぶりの登場で、さらに磨きかけた歌声と着実に成長した“太メンぶり”を披露してくれることでしょう。

**大槻孝志(テノール)** ...望月氏のリリック・テノール(抒情的なテノールの意。声としては軽め)に対し、スピント(劇的な声。リリックより重め)の響きを持つテノール。4人でコーラスする時、大槻氏はセカンド・テノールを担当し、望月氏の歌う主旋律を支える役に回りますが、このような内声も歌えるという“芸当”を持っていることは、主役を張るこ

とも多いオペラのテノール歌手としてはめずらしいと言えます。

**青山貴(バリトン)** ...ヴェルディ・バリトン！イタリアの作曲家ジュゼッペ・ヴェルディは〈マクベス〉、〈リゴレット〉(以上、表題役)、〈椿姫〉(ジェルモン役)、〈オテロ〉(イヤゴ役)など、数々の名作オペラにおいてバリトンに印象的な役割を与えていますが、青山氏はまさにヴェルディ作品に求められる艶のある美声と豊かな声量を持っています。なお、テノールの望月氏は高校合唱部(府中西高校)の2つ上の先輩だそうです。

**山下浩司(バスバリトン)** ...女声でソプラノとアルトの間をメゾ・ソプラノというように、バリトンとバスの間をバスバリトンと呼びます。山下氏のオペラでの役を見ますと、〈フィガロの結婚〉(題名役)、〈魔笛〉(パパゲーノ役)、〈パルジファル〉(グルネマンツ役)などバリトン役が多いイメージですが、声質はバスに近く、IL DEVU では深々とした低音で上のパートを支えます。

**河原忠之(ピアノ)** ...多くの歌手たちから指名を受けるコレペティトゥール(以下、コレペティ)。コレペティという言葉に馴染みがない方もいらっしゃると思

いますが、オペラの本場イタリアでは、劇場には必ずコレペティがいて、ピアノで伴奏しながらオペラ歌手たちのコーチをします。イタリアで研鑽を積んだ河原氏は、日本有数のコレペティであり、IL DEUの歌手たちをはじめ、多くの声楽家の信頼を勝ち得ている伴奏の達人です。

### “成長”を続ける IL DEU

一説には「体重が90kgを切るとメンバーから外される危険がある」というIL DEUの面々は、常に“成長”を気かけながら（笑）、驚くほどの情熱をIL DEUの音楽活動に傾け（ただでさえオペラやソノの活動で多忙な一流声楽家たちですから、それぞれの通常の仕事が終わった後、深夜に寝る間も惜しんでリハーサルを行うなど、相当

な情熱がないと続けられないと思います）、その音楽的成果によって高い評価を得てきました。

コンサート活動と連動する形で、2013年12月には1stアルバム「DEBUT」（ここは笑うところです！）をリリース。IL DEUの代表曲とも言える〈パセラ〉や〈マイ・ウェイ〉が収録され、ヒット作となりました。そして昨年9月には2ndアルバム「NUKUMORI」（ここも笑うところです！）をリリース。〈オンブラ・マイ・フ〉、〈涙そうそう〉といった有名曲のほか、作曲家の木下牧子、劇伴や映画音楽で活躍する村松崇継らによるオリジナル曲も収録された意欲作となっています。

筆者は、そのリリースを記念して行われた紀尾井ホールでのコンサートに

足を運びました。IL DEUの皆さんの体格そのままのダイナミックな表現と、圧倒的な声量、そして細部まで目が行き届いた緻密な音楽づくりに深い感銘を受けました。あつという間の2時間でしたが、あのエッセンスを“水戸場所”でどう1時間に凝縮するか、目下頭をひねっています。どうぞお楽しみに！

ちょっとお昼にクラシック

IL DEU（イル・デーヴ）

4/30 13:00 開場  
13:30 開演

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM

全席指定 1,500円（1ドリンク付）

曲目 ダニーボーイ（アイルランド民謡）

シルヴィアに（シューベルト）

さびしいカンの木（木下牧子）

いのちの歌（村松崇継）

見上げてごらん夜の星を（いずみたく） ほか

## 最近の公演から



### 2016.1.30 ちょっとお昼にクラシック 幸田浩子（ソプラノ）

日本を代表するソプラノのひとり、幸田浩子さんが5年ぶりに水戸芸術館に登場し、藤満健さん（ピアノ、作曲家）と多彩なステージを繰り広げてくださいました。ヨハン・シュトラウスⅡ世やオスカー・シュトラウスのオペレッタのメロディでは、楽しい情景が目浮かぶような表情の豊かさとコロラトゥーラで客席を魅了。シューベルトの歌曲では、繊細で深みのある表現を聴かせてくださいました。また武満徹の歌曲は、自由でのびやかな歌心とともに。これから春を迎えるにふさわしい、幸福感に満ちた音楽のひとつとなりました。アンコール曲は、川口耕平〈よかった〉とリチャード・ロジャース〈サウンド・オブ・ミュージック〉。《高巣》アンケートから■好きな幸田さんの珠玉の歌声で、身も心もHOTでございます。（水戸市の方）■玉を転がすような美しい歌声に魅了されました。幸田さんの笑顔、素敵ですね。心あたたまる音楽会でした。（鎌倉市：S.K.さん）■歌は人を幸福にするのだと思い至りました。（ひたちなか市の方）■爽やかさだけでなく、芯の強さ、コクのある声の質に感動です。フレーズが通り過ぎることなく、心の中心にストレートに飛び込んできて涙が出ました。（水戸市：H.H.さん）■幸田さまのお人柄がホールのすみずみまで伝わり、幸せをたくさん頂きました。94歳。（水戸市の方）

### 2016.2.3 ロレンツォ・ギエルミ オルガン・リサイタル

水戸芸術館のパイプオルガンの特徴の一つ

は、コンサートホールよりも残響時間の長いエントランスホールに設置されていること。今回、初めて水戸芸術館を訪れたギエルミ氏は、その音響を気に入ってくださり、「グッド・アイデア！」とお褒めくださいました。リハーサルの最初、曲ごとに使う音色を仮決めしたギエルミ氏は、アシスタントにオルガンを弾いてもらい、ご自分は客席で響きを確認して音色を入念に修正されていました。なるほど、美しい音色はこうして作られるんですね。その後、ギエルミ氏は長く集中してオルガンを弾きこんで本番に臨んでいらっしゃいました。そのオール・バッハ・プログラムは、明るい陽光のように晴れやかにエントランスホールに響きわたったのでした。アンコールはギエルミ氏の故国イタリアのオルガン作品から2曲。パードレ・ダヴィデ・ダ・ベルガモ〈エレヴァツィオーネ（聖体奉挙）〉、フレスコバルディ〈ガリアルダ〉。《篠田》アンケートから■バッハの曲は何度もCDで聴いていましたが、パイプオルガンの演奏を生で聴くのは初めてで感動しました。（土浦市：M.I.さん）■水戸芸術館のオルガンをこの会場設定（リサイタル用に仮設壁を立てて客席を並べた状態）で聴いたのは初めてです。とても良いと思います。ずっと聴いていたいステキな音でした。（水戸市の方）

### 2016.2.7 合唱セミナー 2016 講師：栗山文昭

2005年以来11年ぶりとなる合唱界の重鎮・栗山文昭氏を講師にお迎えしての合唱セミナー。当初予定されていたモーツァルト〈アヴェ・ヴェルム・コルプス〉、信長貴富〈夕焼け〉の2曲に加え、武満徹〈沼尻竜典編曲〉（MI・YO・TA）が栗山氏のご意向で急遽追加された。

1：ちょっとお昼にクラシック 幸田浩子

2：ロレンツォ・ギエルミ オルガン・リサイタル

参加者には嬉しい驚きとなった。講習は大変内容の濃いものであり、例えば〈アヴェ・ヴェルム・コルプス〉では、オーケストラ・パートも記されたスコアを参照しながら、ヴァイオリンが1オクターブ高くなるところに聖母マリアの光輪が感じられること、またラテン語を参加者と一緒に音読しながら、ラテン語のアクセントに基づいてフレーズを作ることの面白さなどを、栗山氏は丁寧に解説した。さらに、〈MI・YO・TA〉では言葉と音を対等に扱うことの重要性を、〈夕焼け〉では反戦への思いを熱く語り、高校生を含むたくさんの参加者に「歌うこと」の意義を再認識させた。《関根》

2016.2.11

### 河村尚子 ショパン・プロジェクト 第3回「マヨルカ島からノアンへ」

現代最高のショパン弾きの一人と評価されている若手ピアニスト、河村尚子さんをお迎えしてのショパン・プロジェクト。第3回は「マヨルカ島からノアンへ」と題し、1838～39年のマヨルカ島滞在とその前後に書かれた〈4つのマズルカ〉作品41、〈ソナタ 第2番〉、〈24の前奏曲〉の3作を取り上げた。河村さんはますます好調で、奇をてらうことなく正攻法で作品と向き合い、これら円熟期の名作の狂気をはらんだ美しさを、抜群のテクニックで聴衆に伝えた。また、トークでは、10代の頃習っていたポーランド人の先生に、「マズルカは貴族ではなく平民が踊るための舞曲だから、もっとダイナミックに」とアドヴァイスされたことなどが紹介され、聴衆の理解の一助となった。アンコールは〈前奏曲 変イ長調〉と〈24の前奏曲〉から第17曲。《関根》 アンケートから■美しく、温かい、そして迫力のある音色に魅了されました。河村さんご本人の声を聞くことができたのもとても嬉しかったです。(水戸市の方) ■児玉桃さん、河村尚子さんとこのシリーズ企画に参加させて頂いていますが、演奏者がどういった考えを持って演奏されているのかを知ることができ、とても楽しみながら聴くことが出来ています。(水戸市の方)

2016.2.24,25,26

### 中学生のための音楽鑑賞会 2016 2016.2.26

#### ちょっとお昼にクラシック

水戸市立中学校の1年生と引率の先生、約2,600人を対象に5回公演を行い、さらに最終日の6回目を一般向けの「ちょっとお昼」

公演として開催。出演は、猶井正幸さん(ホルン)、デイヴィッド・ヘルツォークさん(トランペット)、市川和彦さん(トランペット)、呉信一さん(トロンボーン)、荻野晋さん(チューバ)、沢田千秋さん(ピアノ)の6人。市川さんを中心に、出演者たちの楽器紹介などのトークも挟みながら、それぞれの楽器の独奏曲や金管五重奏曲(スザート〈舞曲集〉、ピゼー〈カルメン組曲〉など)をお聴きいただいた。アンコールは葉加瀬太郎〈情熱大陸〉。さらに、中学生公演では終演後にパイプオルガンによるバッハ〈小フーガト短調 BWV578〉の演奏を鑑賞していただいた。オルガン演奏は龍田優美子さん。《中村》「ちょっとお昼」公演のアンケートから■それぞれの楽器の特性が活かされていてどの曲も楽しかったです。楽器について、色々なことを知ることができました。チューバがあんなに指が動くのか!とか、トランペットであんなにかわいらしい音が出せるのか!とか、いつもと違う一面に驚かされました。(水戸市:T.N.さん) ■市川さんの解説が、とてもよかったです。アンサンブルの曲とソロの曲、どちらも聴き応えがありました。(無記名の方)

2016.2.28

### 高校生のための水戸室内管弦楽団 メンバーによる公開レッスン

茨城県との連携により開催している公開レッスン。今回は管楽器の室内楽をテーマに、工藤重典さん(フルート)、四戸世紀さん(クラリネット)、猶井正幸さん(ホルン)が、アンサンブルを1組ずつ指導する形式で行いました。受講したのは、日立第一高校フルート三重奏、佐和高校クラリネット・アンサンブル、牛久栄進高校金管八重奏。午前中に2時間のレッスンをし、午後の公開レッスンはこれを踏まえての仕上げとなりました。フレーズの山を意識すること、曲のイメージを皆が共有すること、などの助言を通して、短い間に高校生たちの表現力が豊かになっていったのが感じられました。レッスン後のミニコンサートでは、加藤洋之さんのピアノにより、講師の方々は美しい独奏をご披露くださいました。《篠田》アンケートから■普段の部活に活かせるようなキーワードや表現のし方が学べて有意義な時間を過ごせました。(高萩市の方) ■曲を理解しながら聴くことができ、それぞれの先生方の個性も見えて楽しかった。(守谷市の方)



3



4



5



6

3: 合唱セミナー 2016

4: 河村尚子 ショパン・プロジェクト 第3回

5: ちょっとお昼にクラシック スーパー・プラス・アンサンブル

6: 高校生のためのMCOメンバーによる  
公開レッスン&ミニコンサート

## 訃報 ローランド・アルトマン氏

かねてから療養中でした水戸室内管弦楽団のティンパニ奏者、ローランド・アルトマン氏がウィーンでお亡くなりになりました(享年74)。アルトマンさんは、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のティンパニ奏者を長く務められ、2010年からは水戸室内管弦楽団に参加、楽団の発展に計り知れないほどの貢献をしてくださいました。心よりご冥福をお祈りいたします。

## 平成 29 年度の茨城の演奏家による演奏会企画を

下記の要領で募集いたします。

### 【応募要項請求方法】

- ①水戸芸術館エントランスホール・チケットカウンターにて直接入手
- ②82円切手を貼付し返信先を記入した封筒を同封の上、下記宛て郵送
- ③水戸芸術館ホームページ [http://arttowermito.or.jp/] よりダウンロード

### 【応募対象】

個人：イ) 茨城に本籍を有する  
ロ) 現在、茨城県内に居住している  
ハ) 現在、茨城県内に通勤、通学している (週に4日以上)  
ニ) 過去において茨城県内に居住・通勤・通学したことがある

団体：茨城県を中心に活動されている団体  
※ただし、平成 27、28 年度の「茨城の演奏家による演奏会企画」にご出演された方はご応募できません。

【受付期間】2016年5月10日(火)～6月9日(木) [当日必着]

【開催時期】平成 29 年度 (2017 年 4 月～2018 年 3 月)

- 【提出資料】①所定の申込用紙  
②これまでの演奏歴を示す資料 (演奏会チラシ等)  
③住民票の写し  
④2015 年 6 月 1 日以降の演奏のデモ音源  
⑤返信用封筒一部 (82 円切手を貼付し、本人の住所・氏名を明記すること)

【お問い合わせ】〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8  
水戸芸術館 音楽部門「演奏会企画」係  
TEL.029-227-8118 / FAX.029-227-8130 (担当：中村)

## チケット・インフォメーション

《3月26日(土)発売分》

■トン・コープマン オルガン・リサイタル

6/27 (月) 19:00 開演

※当日は休館日ですが、演奏会のため 16:30 より開館します。

料金 [全席指定] A 席 ¥3,500 / B 席 ¥3,000 / ユース (25 歳以下) ¥1,000

## これからの演奏会・残席情報

○…残席あり (20 席以上) △…残席わずか (20 席未満) ×…残席なし  
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

- ◎埴美里 サクソフォン・リサイタル……………3/19 (土) 自由席○
- ◎M.L.R. & 茨城県立水戸第二高等学校コーラス部……………3/20 (日) 自由席○
- ◎水戸室内管弦楽団 第 95 回定期演奏会 (第 2 部指揮：小澤征爾)  
……………3/25 (金) 売完  
……………3/27 (日) 売完

- ◎ちょっとお昼にクラシック IL DEUVU (イル・デーヴ)  
……………4/30 (土) 中央×、左右○
- ◎水戸室内管弦楽団 第 96 回定期演奏会 (指揮：ヴィオラ：ユーリ・バシュメット)  
……………6/4 (土) 中央○、左右・裏○  
……………6/5 (日) 中央○、左右・裏○
- ◎高山三智子 ピアノ・リサイタル……………6/18 (土) 自由席○

※3/2 (水) 現在の状況です。  
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館の主な 4 月のスケジュール

### コンサートホール ATM

■ちょっとお昼にクラシック IL DEUVU (イル・デーヴ)

4/30 (土) 13:30 開演

料金 [全席指定] ¥1,500 (1 ドリンク付き)

## エントランスホール

■パイプオルガン プロムナード・コンサート (入場無料)

□4/9 (土) 安井歩、10 (日) 木村理佐  
各日 12:00～/13:30～ (各回 30 分程度)

□4/29 (金・祝) 《ゴールデンウィークスペシャル》  
バク・ジュンホ 13:00～ (45 分程度)

■ゆうくとマットさんの工房展 (入場無料)

4/16 (土)～5/8 (日) 9:30～18:00 衣装や小道具を展示します。

## ACM 劇場

■平成 27 年度水戸子どもミュージカルスクール発表公演『ここは命の星』

4/2 (土) 13:00 / 16:00 開演、3 (日) 13:00 開演

料金 [全席指定] 子ども (3 歳～中学 3 年生) ¥800 / 大人 ¥1,500

■伝統芸能のスズメ [狂言] 野村万作抄 23『宗論』『鎌腹』

4/16 (土) 18:30 開演

料金 [全席指定] S 席 ¥5,000 / A 席 ¥4,500 / B 席 ¥3,500

■劇団民藝公演『二人だけの芝居 ―クレアとフェリースー』 出演：奈良岡朋子、岡本健一

4/23 (土)、24 (日) 各日 14:00 開演

料金 [全席指定] S 席 ¥6,000 / A 席 ¥5,000 / B 席 ¥3,500

## 現代美術ギャラリー

■田中功起 共にいることの可能性、その試み

2/20 (土)～5/15 (日) 9:30～18:00 ※入場は 17:30 まで

[休館日] 月曜日 ※ただし 3/21 (月・祝) は開館、翌 3/22 (火) は休館

[入場料] 一般 ¥800 / 前売り・団体 (20 名以上) ¥600

※中学生以下・65 歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方 1 名は無料

■クリテリオム 92 土屋紳一 ※料金は展覧会の入場料に含まれます。

■高校生ウィーク 2016

3/6 (日)～4/3 (日) ※入場は 17:30 まで

【カフェ開場時間】(火・金) 15:00～18:00 / (土・日・祝) 13:00～18:00

【カフェ会場】ギャラリー内ワークショップ室

【無料招待対象】高校生または 15 歳～18 歳の方

※学生証または年齢がわかる証明書をご提示ください。

## 水戸の主な 4 月の演奏会

■佐川文庫 TEL / 029(309)5020

・天羽明恵 ソプラノ・リサイタル (ピアノ：村上寿昭) 4/23 (土) 18:00 開演

■茨城県立県民文化センター (大ホール) TEL / 029(241)1166

【県民文化センター 開館 50 周年記念事業】

・ミッフィーの音楽会 4/9 (土) 1 回目 12:00 開演 / 2 回目 15:00 開演

・宗次郎オカリナ生活 40 周年記念コンサート 4/10 (日) 17:00 開演

・諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル 2016 4/11 (月) 18:30 開演

## チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000

営業時間：9:30～18:00 (月曜休館)

## 公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://blog.arttowermito.or.jp/staff/>

ATM 便り 毎月 1 回茨城新聞に不定期登場

twitter @ConcertHall\_ATM

## 編集後記

北陸の底力を見せつけられました。福井の街中で、「雪がなければ水戸と似た雰囲気ですね～」などと話していた直後から、降るわ、降るわ。あっという間に真っ白に。ごめんなさい、やっぱり水戸とは全然違いました。(り)

最近、大きな白猫が庭に出没する。どこから来たのか、先住ノラ猫と縄張り争いで大騒ぎ。その度に雪が降ったかのように白猫の毛が庭に積もる。室内飼いのうちの猫は、外の世界の厳しさを窓越しに見つめるのでした。(稲)

水戸芸術館でローランド・アルトマンさんを講師に招いて小中学生打楽器セミナーを開催したのは、4 年前の夏。あのときのことが思い出されます。音楽に対してピュアで真剣で、熱く、忍耐強いアルトマンさん。R.I.P. (篠)

一番の何分前に燕尾服に着替える、なども自分と周囲の状況をコントロールしている方でした。そのお姿にどれだけ励まされたことでしょう。アルトマンさん、どうぞ安らかに。(て)

演奏の素晴らしさは勿論、妥協なき向上心、異文化やアートにも広がる好奇心、インタビューのお礼にと奥様手作りジャムをくださるさりげない優しさ、教育への並外れた情熱…アルトマンさんとの出会いは私の人生の宝物です。(樹)

人の死は自然の理で、避けることなどできないものではあるが、またしても、偉大で大切な方が逝ってしまわれた。最後まで水戸での演奏を特別に思ってくださいアルトマンさんのティンパニの音色、一生忘れません。(中)

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]  
2016 年 4 月発行 第 207 号  
編集発行：水戸芸術館音楽部門  
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8  
TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130  
E-MAIL [ankmr@arttowermito.or.jp](mailto:ankmr@arttowermito.or.jp)  
URL <http://arttowermito.or.jp/>  
編集：水戸芸術館音楽部門 (五十音順) / 石井亮子  
稲田枝里子 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃  
デザイン：藤澤絢子  
印刷所：山三印刷株式会社